

大手門

徳川将軍時代（1603～1867）、大手門は江戸城の正門となり将軍と大名たちによって使われました。直角に配

置された大小2つの門で構成されています。これは襲撃者の足を遅らせ、閉じた空間内に敵を捕らえて大門の上階か

ら攻撃するための仕掛けでした。大門は第二次世界大戦中の空襲で破壊された後、1967年に再建されました。扉

近くに設置された装飾的な海の怪物（シャチホコ）は最初の門の屋根からのもので、火除けの護りとして設置されて

いました。その頭部には1657という日付が刻印されています。

写真の説明

明治時代（1868～1912）初期の大手門

「鹿鳴館秘蔵写真帖」より（霞会館資料展示委員会）